

今、何の病気が流行しているか！

【感染症発生動向調査事業から】



KAWASAKI CITY

平成27年11月2日（月）～平成27年11月8日（日）〔第45週〕の感染症発生状況

第45週で定点当たり患者報告数の多かった疾病は、1) 感染性胃腸炎 2) A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 3) RSウイルス感染症でした。
 感染性胃腸炎の定点当たり患者報告数は6.45人と前週（6.58人）からほぼ横ばいで、ほぼ例年並みのレベルで推移しています。
 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎の定点当たり患者報告数は2.70人と前週（3.06人）から減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。
 RSウイルス感染症の定点当たり患者報告数は0.88人と前週（1.27人）からやや減少しましたが、例年より高いレベルで推移しています。



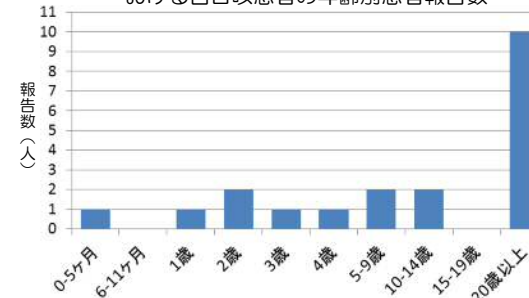
知っておきたい感染症～百日咳～

百日咳は、特有のとまりにくい咳発作を特徴とする急性気道感染症です。乳幼児は特に重症化しやすいといわれていますが、成人では咳が長期に渡って持続するものの、特有の発作性の咳が出ることなく回復します。しかし、軽症でも菌が排出され、ワクチン未接種の新生児・乳児に対する感染源となりやすいので注意が必要です。

百日咳ってどんな病気？

- ▶ 感染経路：接触または飛沫感染
- ▶ 潜伏期間：7～10日
- ▶ 症状：かぜ症状で始まり、咳が激しくなるカタル期の後、短く激しい咳が連続して起こり、笛の音のような音が出る咳発作を繰り返す痙攣期を経て回復します。全経過が3ヶ月（おおむね100日程度）であることから百日咳と呼ばれています。
- ▶ 治療方法：適切な抗菌薬での治療により、服用開始から5日後には菌はほぼ陰性となります。
- ▶ 予防方法
百日咳を含むワクチンの接種が有効ですが、一般的な咳エチケットも大変重要です。

平成27年 市内小児科定点医療機関における百日咳患者の年齢別患者報告数



百日咳は、母親からの免疫が期待できないため、乳児期早期から罹患します。
 ワクチン未接種の場合、1歳以下の乳児（特に生後6ヶ月以下）では死に至る危険性が高い感染症です。

